

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第 135 号)

高梁市図書館 公式 LINE 開設

令和 5 年 4 月から、高梁市図書館公式 LINE を開設しました。

公式 LINE の役目は主に、情報発信・インターネットサービス マイページへのアクセス・利用券機能の 3 つです。

高梁市図書館からタイムラインに発信する情報は、主にイベントのお知らせです。利用者は、投稿された気になるイベントをタップすると、ホームページの情報詳細画面のリンクに飛ぶことができ、申込み画面へとスムーズに進むことができます。

インターネットから貸出状況の確認・延長・予約などができるシステムは多くの図書館が導入をし、より便利に図書館を利用できるものとして既知のツールですが、ログインをするごとにパスワードや ID を入力することが必要です。しかし、図書館での利用者登録完了後、ホームページからマイページの設定をし、LINE とマイページとを連携していただくことで、毎度のログインが不要となり、マイページへのアクセスの利便性が向上します。

マイページと連携させることにより、利用者カード (Tカードでの利用を除く) のバーコードを LINE の画面上に出すことができます。図書館を利用したいタイミングで、万が一利用者カードを忘れてしまった場合でも、事前に設定ができていれば貸出に使用することもでき、利用者・図書館双方の機会損失を防ぐことにもなります。

マイページのサービスはインターネット環境があれば利用でき、開館時間にとらわれずに図

書館の機能へアクセスできるツールとして便利な機能です。そこへさらに LINE という SNS 利用者の利用率が 8 割を超え (※LINE for Business ホームページより引用)、日常的に使用されることの多い SNS のサービスを利用することで、図書館がより身近な存在として、利用者の生活の一部となることができることを期待しています。



〔館内で配布をしているチラシ〕



〔実際の LINE 画面〕

(高梁市図書館 佐藤ちえみ)

新見市立図書館 新たな体制

令和 5 年 4 月 1 日より、新見市立図書館は新たな体制となりました。令和 3 年度末、新見市図書施設検討委員会による「今後の図書施設のあり方について（答申）」を受けて、よりよい図書館となるよう変化していきます。

■新見市図書施設検討委員会の答申

令和 3 年 11 月、教育委員会から今後の図書施設のあり方についての諮問があり、新見市図書施設検討委員会において協議されました。これまで、新見市は、中央図書館のほか、哲西図書館・大佐図書コーナー・神郷図書コーナー・哲多図書コーナーの 5 つを設置し、サービスを提供してきました。現状では、施設の規模や運営方法の違いにより住民が等しく図書サービスを楽しむ環境にないこと、高齢化や交通手段の乏しさ等により図書施設を利用しづらい住民がいることなどの課題が明らかになりました。課題の解決を図るための答申が次の 4 点です。

- 1 市による管理・運営体制の確立
- 2 図書サービスの平準化
- 3 図書サービスの充実
- 4 特色ある図書施設の運営

■哲西図書館の直営化

哲西図書館は、合併前の旧哲西町であった平成 17 年 3 月に岡山県内で初めて指定管理者制度を導入し、NPO きらめき広場による運営が続いていました。この度、答申 1 の「市による管理・運営体制の確立」を受け、令和 4 年度末の委託期間終了後は市の直営となりました。以前から勤務していた職員を継続して雇用することで、サービスの停滞を防ぐとともに、他の図書施設職員並みに報酬や福利厚生を引き上げ、職員の待遇を改善しています。

■図書サービスの平準化

中央館を除く 4 施設を比較したとき、顕著な差があることが明らかになりました。開館日数

では最大約 90 日の差が生じており、蔵書数・図書費でも大きな差があります。答申 2 の「図書サービスの平準化」を実現するために、特に格差のある哲西と哲多を中心に是正するよう努めています。哲西図書館を、新設された哲西生涯学習



[哲西生涯学習センター図書施設になりました]

センターの図書施設と位置づけて名称を統一し、各図書施設のサービス時間等の差を縮小

しました。また、哲多総合センター図書施設のスペースを拡大するよう計画しています。

平準化は、単純に数値を平均とすることが目標ではなく、エリアの人口・面積に留意しつつ、現状のサービスを維持しながら全体的な底上げを目指します。

■これからの新見市立図書館

答申から 1 年。市内の 5 施設で足並みをそろえる準備をしてきました。新見市民のみなさまに、どの施設を利用してもご満足いただけるよう努めてまいります。平等なサービスの提供だけでなく、地域に根差した愛着の持てる新見市立図書館を志して、改革はまだこれからです。（新見市立中央図書館 景山詩織）

教育委員会からのお知らせ

 **令和 5 年 4 月 1 日から支局管内図書施設（図書館・図書コーナー）の休日と利用時間が変わります**

■おおよさ総合センター図書施設（図書コーナー）
休 日・・・月曜日（祝日のときは翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）、館内整理日、特別整理期間
利用時間・・・平日 10:00～18:00
土日祝 9:00～17:00

■神郷生涯学習センター図書施設（図書コーナー）
休 日・・・月曜日（祝日のときは翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）、館内整理日、特別整理期間
利用時間・・・平日 10:00～18:00
土日祝 9:00～17:00

■哲多総合センター図書施設（図書コーナー）
休 日・・・木曜日（祝日のときは翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）、館内整理日、特別整理期間
利用時間・・・平日 10:00～18:00
土日祝 9:00～17:00

■哲西生涯学習センター図書施設（哲西図書館）
休 日・・・木曜日（祝日のときは翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）、館内整理日、特別整理期間
利用時間・・・9:00～19:00

○休日のあつかい・・・休日にある日が祝日・振替休日の場合は、その日より後で、最も近い平日が休日になります。ただし、祝日・振替休日の翌日が土曜日の場合は、開館し、以後最も近い平日が休日となります。

●公民館は開館しています（12月29日～1月3日を除く）。 

[休日・利用時間の差を縮小しました]

鏡野町立図書館 20周年

鏡野町立図書館は今年3月末に20周年を迎えました。昨年度は改修工事のため、図書の一部を引越し、中央公民館の1室で10月から1月までの4カ月間 ミニ図書館を開設しました。利用は大幅に減少しましたが、「少ないので選びやすい」「普段借りないジャンルの本に出会えた」との声の頂くこともありました。リニューアルオープンの2月には、減少を取り戻す勢いの利用がありました。照明はLEDに、老朽化していた空調設備も更新されました。

今年度は、20周年記念行事として、毎月1回の映画上映や、「みんなの声」と題し、図書館の思い出などのメッセージを募集しています。5月の映画「老後の資金がありません！」では、問い合わせも多く、当日会場では何度も笑いが起きていました。「みんなの声」は掲示しきれないほど集まり、「ここに来るとホッと心が和みます。」「定年退職後は私の大切な癒しの場です。」「読みたい本がたくさん読めて私の読書欲は満たされています。」など、用紙にびっしり書かれているものも多く、職員一同あたたかい感謝の気持ちになっています。

時代の変化に柔軟に対応し、生涯学習を身近に提供できるよう、これからも取り組んでいきたいと思えます。



(鏡野町立図書館 森由美恵)

美咲町立旭学園図書室のご紹介

県北初の義務教育学校である「美咲町立旭学園」は、令和5年4月に開校しました。

美咲町立旭小学校、美咲町立旭中学校の頃から各校に公共図書館の司書を派遣し、普段の図書室整備を行ってきましたが、旭学園開校にあたり、通常整備と並行して各校の複本の確認、除籍、引っ越し作業の後、新たな図書室の分類場所の設定、配架などの開館作業を司書中心に行いました。

以前は司書の派遣が、小学校へ2週間に1度1日、中学校へ毎週1度半日のペースでしたが、旭学園になってからは、火～金曜日の間、1日中常駐しています。

旭学園図書室が開館してからは、子どもたちの利用が今まで以上に増えただけでなく、教職員へも貸出可能としたため、授業用以外での先生方の利用も増えました。子どもたちからは「小学校の時に読んでいた本の続きが読めて嬉しい。」や、先生方からは「毎日司書さんがいてくれると本当にありがたい。」というお声も届きました。

栄養教諭から相談を受け、絵本に出てくる料理が7月の給食メニューになりました。また、文化委員とのコラボや、読み聞かせボランティアとの勉強会など、様々な方向から図書室を利用していただく機会が増え、整備を頑張ってよかったと日々思っています。児童・生徒・先生の声の聞きながら、これからも「また行きたい!」と思ってもらえるよう工夫を続けて行きたいと思えます。



〔文化委員による読み聞かせの様子〕

(美咲町立旭図書館 山本佳苗)

岡山理科大学図書館サマー・スタディ

サマー・スタディは、近隣の小学生の勉強を理大生がサポートすることにより、地域貢献をするとともに理大生に様々な経験をしてもらうことを目的として、平成27年度より開始されたイベントです。コロナ禍で3年間休止していましたが、令和5年度に久しぶりに再開しました。この他、冬に同様のプレ・クリスマス・スタディを開催しています。

内容としては、終わっていない夏休みの宿題（ドリルやワークシート）、自由研究・工作・作文・読書感想文などを中心に宿題の総仕上げを行うものです。その他に、留学生との交流によりグローバルな体験もしてもらっています。

ドリルやワークシートは、お兄さん・お姉さんがついていてくれることで、分からないところをサポート（答自体は教えません）してもらえただけでなく、集中してできるのが、良いようです。

作文・読書感想文は、サポートしにくいものではありますが、それなりに出来上がっていくようです。

また、自分がやりたいこととして、習字を持ってきた子もいましたが、書道何段という学生もいて、ちゃんと対応できたようでした。

自由研究や工作は、図書館蔵書のネタ本と材料を用意しておいて、その中から選んで、やっても

らっています。理大生の得意分野でもあり、毎年好評のメニューです。その他、恐竜学博物館の見学も好評です。

この他、昼休みには、かき氷・綿菓子・ポップコーン作りなどを楽しんでもらっています。

近隣地域との交流を楽しんでいるレベルですが、地域貢献の一助となっていれば幸甚です。

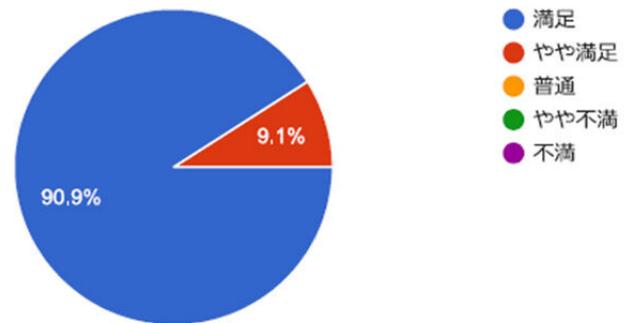
最後に、今年（令和5年度）のサマー・スタディの結果をご紹介します。

■開催日：令和5年8月26日（土）、27日（日）

■参加者数

月日	小学生	保護者	理大生	計
8月26日	18	7	19	44
8月27日	14	5	16	35
合計	32	12	35	79

■満足度



■楽しかった内容



[写真1. 留学生のイベント風景]

(岡山理科大学図書館 林成吾)

川崎医療福祉大学 学術機関リポジトリについて

「川崎医療福祉大学学術機関リポジトリ」は、川崎医療福祉大学の所属構成員による学術研究・教育活動から生み出される論文などの研究成果物を蓄積・保存し、学内外に無償で発信するためのインターネット上の書庫です。平成25年12月から公開しており、令和5年8月現在で3,307件の情報を登録しています。



[川崎医療福祉大学学術機関リポジトリトップ画面]

(<https://kwmw.repo.nii.ac.jp>)

機関リポジトリの構築は、大学や研究者、また社会にとって様々なメリットがあります。

○ 大学にとってのメリット

大学内での研究活動や教育活動の内容を学外に対して明確に示すことができ、あらゆる人にオープンに利用してもらえるので大学の社会に対する説明責任、社会貢献の遂行手段となります。また、教育・研究成果の一元的管理や恒久的保管も可能となります。

○ 研究者にとってのメリット

研究成果のあらたな公表機会・手段となります。インターネット環境からでも閲覧できるようになるので世界中の研究者、市民そして企業の方など、様々な利用者に見てもらえることができ、成果物と研究者の認知度が向上します。

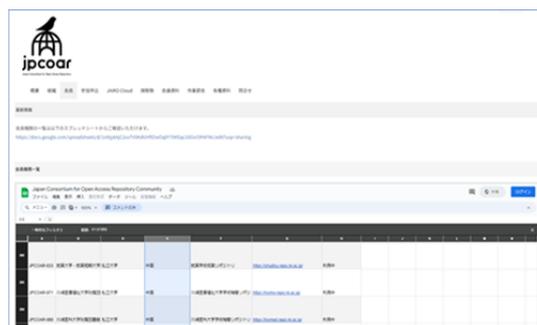
○ 社会にとってのメリット

大学の研究成果など、これまで一般の方が入手困難であった文献や資料をインターネットを通じて容易に利用することができるようになり

ます。インターネット環境があれば、世界中の誰でも無料で研究成果にアクセスできます。

それぞれのメリットに応じて、機関リポジトリを利活用してみてください。

岡山県内には大学が多数あり、ほとんどの大学で機関リポジトリを構築しています。大学独自で構築している大学もありますが、多くの大学は、オープンアクセスリポジトリ推進協会(略称: JPCOAR)と国立情報学研究所が共同運営しているリポジトリのクラウドサービス「JAIRO Cloud」を利用することで効率的に機関リポジトリを導入・運用することができています。以下のJPCOARのホームページには、会員機関一覧があり、令和5年7月13日現在で737機関が参加しています。ちなみに岡山県内では、16機関の情報が公開されています。



[JPCOAR 会員機関一覧画面]

(<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/40>)

また、IRDB (学術機関リポジトリポータル: Institutional Repositories DataBase) は日本国内の学術機関リポジトリに登録されたコンテンツのメタデータを収集し、提供するデータベース・サービスです。日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索できます。こちらからも機関リポジトリの一覧を確認することができます。

(<https://irdb.nii.ac.jp/repositorylist>)

ぜひ、各大学等の機関リポジトリをご覧ください。大学等が生み出す多様な知的生産物を入手し、有効活用してみてください。

(川崎医療福祉大学附属図書館 杉本美佳)

備中笠岡・浅野家文書
— 図書館のお宝紹介 (第10回) —



[浅野家文書群 (貴重書庫外側より全体撮影)]

岡山商科大学では、昭和 57 年 4 月、笠岡市在住の浅野寿子氏のご好意により、備中笠岡・浅野家に代々秘蔵されてきた近世文書 90 点・近代文書 1,310 点の計 1,400 点の文書を寄贈していただきました。

現在は、本学図書館の貴重書庫(閉架)にて保存しており、2 階カウンターにある「書庫利用簿」に必要事項を記入していただき、ご利用いただけます。(資料の状態によっては、利用を制限させていただく場合もございます。)

近世文書は、浦方問屋の経営史料で、商業(売買)・金融(貸借)を中心とした内容となっています。

一方、近代文書は、下記のような文書で構成されています。

- ▶ 浅野家当主が明治中後期まで笠岡町(村)地方議会議員として活動された時代の地方行政文書・記録
- ▶ 浅野家に関わる融通会社や地方銀行の設立・運営に関する記録
- ▶ 明治・大正・昭和初期の浅野家の商業関係記録(本帳、当座帳、手板帳等)

これらの文書は、商業経営の変遷がたどれる大変貴重な資料となっています。

(岡山商科大学附属図書館 石田和也)

倉敷市立真備図書館の防災パネル展

倉敷市立真備図書館は、平成 30 年 7 月豪雨で被災し、令和 3 年 1 月に、元の場所で再開館しました。

令和 3 年 12 月、平成 30 年 7 月豪雨調査のため、国立研究開発法人「防災科学技術研究所自然災害情報室」(以下、防災研)の職員が来館され、その際、パネル展を共催で行うことが提案されました。令和 4 年 7 月に、防災に関連する図書約 230 冊を集めた常設の防災コーナーを設置し、令和 4 年 9 月 1 日から 29 日までの間、防災研が制作した集中豪雨のしくみや、各被災県の被害状況など平成 30 年 7 月豪雨に関するパネルを使った防災パネル展「備え(災害知識)あれば憂いなし」を、防災コーナー前で開催しました。パネル展に対する来館者の関心も高く、防災コーナーの図書の貸し出しも好調でした。

今年度も、平成 30 年 7 月豪雨から 5 年となるのに合わせ、令和 5 年 7 月 1 日から 27 日までの間、令和 4 年度のパネルに新たなパネルを加えた防災パネル展「西日本豪雨災害から 5 年」を、今回はより多くの来館者に見てもらえるよう玄関ホールにて開催しました。図書館が用意した倉敷市や防災研のパンフレット等も、ほとんど持ち帰られ、関心の高さがうかがえました。

これからも、防災意識の啓発と、豪雨災害の記憶を風化させないための一助となるべく、継続してパネル展を開催したいと思います。

(倉敷市立真備図書館 石井秀樹)



[令和 5 年度防災パネル展]

菊桜の小冊子つくりました！

皆さんは「菊桜」という花をご存知でしょうか？桜の栽培品種の一つで、300枚近くの花弁がつく全国的にもとても珍しく美しい桜です。里庄町立図書館は、7年前から里庄町出身の博物学者佐藤清明さとうきよあき（以下清明さん）せいめいの業績を顕彰する団体「佐藤清明資料保存会」の事務局をしています。この菊桜は清明さんが特に愛して普及に努めた花です。平成29年清明さんが植えた岡山大学構内の菊桜が枯れかけているとの情報が入り、菊桜を救うため佐藤清明資料保存会の有志が集まりました。大学当局の許可を得て養生活動を地道に続けました。この活動をきっかけに、清明さんの遺志を受け継ぎ菊桜の保護・PRを目的とした「菊桜育成保存会」を2年前に立ち上げました。令和4年には、福武教育文化振興財団から助成を受け、地域の若い人たちにも菊桜の魅力を知ってもらおうと作ったのが、この小冊子『佐藤清明ゆかりの‘菊桜’』です。1章「菊桜のヒミツ」2章「せいめいさんと菊桜」3章「岡山県の菊桜紹介」4章「菊桜育成保存会の活動」の4部構成です。2章は、清明さんと菊桜の奇跡のストーリーをオリジナルマンガにしました。菊桜の生態について紹介した日本で初めての冊子ではないかと自負しています。令和5年4月に岡山県内の公共図書館に配布させていただいています。ぜひ、ご覧ください！



『佐藤清明ゆかりの‘菊桜’』

(里庄町立図書館 小野礼子)

県図協セミナー（第1回）に参加して

「災害と図書館～自然災害の実例と防災の心構え」
期日：令和5年6月12日（月）参加者：24名
講師：堀田 弥生氏

((公社)全国市有物件災害共済会 防災専門図書館)
観測史上最も暑かった今年の夏。世界各地で起こった熱波、山火事、地震、風水害、疫病そして戦争。そんな中、開催されたセミナーは、何と時宜に合ったテーマでしょう。講師の堀田弥生氏は、全国にただ一館の防災専門図書館の司書・学芸員、災害資料に関わって30年とのご紹介がありました。

ご講演は、「なぜ災害に備えるのか」というソモソモの問いから始まりました。自然現象（地震・豪雨他）が我々の生活の中で起こった時⇒被災、それは社会現象（震災・水害他）となります。そして今に生きる我々はその社会現象を社会問題として可視化し、被害を最小限に抑える道を、集合知と情報を最大限に活かして進んで行きます。もう一方で、被災後の復旧への道については、目標・方針・方向性、それらの一つ一つを解決すべき課題として歩んで行く、というのが大筋だったと思います。その課題解決の指針として示されたのが、近年リニューアルされたNDLの防災サイト、各自治体のハザードマップ等の活用でした。次に、近年起こった全国図書館の被害事例や対策事例の紹介がありました。今後、岡山県の図書館で起こり得る災害について言及された時には、参加者の目がスクリーンに釘付けになりました。

図書館という情報アクセスに好条件を備えた施設がなすべき対策は、まずは地域の災害リスクを知ること、そして利用者、現場、自治体と、可能な限り多様な視点を持った防災アーカイブを構築すること。次に、それらを最大限活用した「マイタイムライン」を作成して、スムーズな実行が可能かどうかを検証。更に確実な実行に向けてのブラッシュアップを行うことを推奨されてご講演を締め括られました。（個人会員 池田由美子）

お知らせ

■理事会・定期総会

令和5年度理事会を5月19日に、定期総会を6月12日に開催しました。総会の当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【令和5年度役員（敬称・役職略）】

- 会 長 (施) 岡山県立図書館 大西 治郎
 - 副会長 (施) 岡山市立中央図書館 永田 朱美
 - 〃 (施) 岡山大学附属図書館 甲賀研一郎
 - 理 事 (施) 倉敷市立中央図書館 梶田 貴代
 - 〃 (施) 総社市図書館 小原 純
 - 〃 (施) 就実大学・就実短期
大学附属図書館 川崎 剛志
 - 〃 (施) 金光図書館 大矢 嘉
 - 〃 (個) 学校司書 稲葉三千代
 - 〃 (個) 青年図書館員研修会 佐藤 賢二
 - 〃 (個) JLA代議員 本山 雅一
 - 監 事 (施) 津山市立図書館 菊入 典子
 - 〃 (施) 早島町立図書館 吉見 一成
 - 参 与 岡山県教育庁生涯学習課 滝澤 幸隆
- (※ (施) 施設会員、(個) 個人会員の略)

■本年度の研修

- 県図協セミナー（第1回） 6月12日
P7参照
- 県図協セミナー（第2回） 8月4日
「デジタル社会の図書館戦略」—図書館の強みと電子書籍サービス 参加者：55名
講師：早川 光彦氏（富士大学 経済学部教授）
会場：岡山県立図書館
- 県図協セミナー（第3回） 9月27日
八戸市を「本のまち」に～市営書店・八戸ブックセンターの取り組み～
講師：音喜多 信嗣氏（八戸ブックセンター所長）
会場：新見市立中央図書館
- 第97回教養講座 11月10日
「空間の「音」を整え「いごこちと安心」をつくる

～自然音源の「ゆらぎ」で自律神経を整える～
講師：榎本 誠也氏（株式会社 JVC ケンウッド
メディア事業部エグゼクティブプロデューサー）

「図書館での感性デザインの適応と事例」

講師：柳川 舞氏（一般社団法人 KANSEI Projects
Committee 代表理事）

会場：岡山県立図書館

○県図協セミナー（第4回）令和6年1月31日

「図書館とデジタル・シティズンシップを考える」

講師：坂本 旬氏（法政大学キャリアデザイン学
部教授）

会場：岡山県立図書館

■令和5年度企画委員

- 委 員 長 住友加奈子（岡山県立図書館）
- 副委員長 久保 千宙（岡山市立中央図書館）
- 委 員 石井 秀樹（倉敷市立真備図書館）
- 〃 佐藤ちえみ（高梁市図書館）
- 〃 景山 詩織（新見市立中央図書館）
- 〃 飯網 陽子（奈義町立図書館）
- 〃 関 瞳（勝央図書館）
- 〃 石田 和也（岡山商科大学附属図書館）
- 〃 杉本 美佳（川崎医療福祉大学附属図書館）

■県図協セミナー（第1～3回）の資料提供

先に開催されました標記の研修について、資料が必要な方は事務局までご連絡ください。

■現在、募集中！くわしくは協会ホームページ

- 研修参加助成事業による令和5年度の派遣者を募集しています。ぜひご利用ください。
- 令和6年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。積極的なご応募をお待ちしています。

令和5年9月30日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 大西 治郎

TEL：086-224-1269